

地域と協働して、地域の魅力を高めていくために イオンモール宇城バリューの挑戦

イオンモール宇城バリューは、熊本県のほぼ中央、2005年1月に5つの町が合併して誕生した宇城市にある。テナント数約100店舗、駐車台数3,300台と、宇城市でもひときわ目につく大型ショッピングモールだ。行政やNPOと連携し、地域の魅力づくりに力を入れている宇城バリューを訪ねた。

生産者が丹精をこめた農産物の地産地消を推進

「とびきり甘い塩トマト、太陽の恵みをあびた不知火町の早生みかんはいかがですかー」。拡声器から、にぎやかな声が聞こえてくる。地元産の有機栽培の農産物や加工品を農家から直接仕入れ販売している「ふぁーまーず・まーけっと宇城」である。地域密着型の専門店を強化したいという宇城バリューと、地産地消の新しい店をつくりたいという津末啓二さんの構想が合致し、2007年9月にオープンしたものだ。

「当初は地域の農家や加工業者の協力がなかなか得られず苦勞しました。何度も足を運び、生産者の思いを消費者に直接届けたいと説得して、少しずつネットワークを広げていったのです」

今は、採れたての新鮮な野菜や果物、こだわりの醤油や豆腐、農産物の加工品、惣菜や弁当、地元作家の手工芸品がズラリと並ぶ。球磨酪農のヨーグルトなどのヒット商品も出てきた。

「食の安全・安心に消費者が敏感になったことも追い風になっています。近い将来、鮮魚もラインナップに加えて、朝市を開きたいですね」と、津末さんはこれからの夢を語っている。

こうした地産地消を推進する取り組みに、

宇城バリューでは数年前から力を入れてきた。毎年秋には、豊かな自然に恵まれた宇城市の特産品をアピールする一大イベント「宇城市物産展～食とモノの祭典～」に協賛しているほか、春に行われる「宇城フラワーフェスタ」では敷地を提供し、市民とともにボランティアスタッフに加わり大会運営をサポートしている。また市のフラワー協議会と協働で、市民とともに駐車場の花壇に花を植える活動も展開。2007年6月には、JA熊本うきとタイアップし、田植えから稲刈りまでを体験できる「農業体験福袋」を販売し、100名の親子が農作業に汗を流した。

地域ブランドの発信基地として

地域の情報発信基地としての役割も大きい。2007年7月には、「宇城市行政サービスセンター」がオープンした。また宇城市雇用促進協議会とも連携し、地域の雇用拡大に取り組んでいる。同協議会の中尾雅幸さんは言う。

「なんといってもイオンモールは、宇城市でもっとも雇用吸収力のある企業のひとつです。ぜひ大勢の地元の方に働いてほしいですね。私たちは地元商工会とともに、地域の農産物でオリジナル商品を開発し、会社を興して雇用を創出することにも力を入れています。宇城バリューには、そのためのアンテナショップの役割も期待しています」

2008年1月に宇城市産のショウガを使ったアロマオイルで足湯、マッサージ体験のイベントを実施したところ、大勢のお客さまが集まり長蛇の列だったという。このように開発した商品を「ふぁーまーず・まーけっと宇城」で発売して地域発のブランドとしていきたいという構想も膨らむ。



■宇城市雇用促進協議会
事業推進員

中尾 雅幸氏 (左)

■ふぁーまーず・まーけっと宇城

津末 啓二氏 (右)



■宇城市小川町商工会会長
橋本 徹氏

地域から愛されるモールに

宇城市小川町商工会会長・橋本徹さんは「いまや大型店と商店街の店が競争するのではなく、それぞれが独自のサービスを考え出しながら協力関係を築き、相乗効果で地域全体の底上げを図っていかなくてはなりません。

ん。宇城バリューは周辺地域からの集客力もあり、この地域の発展に必要なショッピングモールです。お互いに知恵を絞って、宇城ならではの魅力を増していきたい」と語る。

ゼネラルマネージャーの山義信も思いは同じだ。

「地域間競争の激化するなか、私たちが生き残る道は、いかに地域に愛されるモールになるか。そのためには、ここにしかないものをどれだけ発掘していけるかが勝負だと思っています。幸い、地域の核となる人たちが集まり、宇城バリューを拠点にネットワークがさらに広がっていきようとしています。ここで働く従業員もお客さまも、みなが『宇城っていいな』と実感できるようなモールにしていきたいですね。」

誇りの持てる郷土づくりに力を注ぎたい。

■宇城市市長 阿曾田 清氏

宇城市では、教育、環境、健康、雇用、観光の5つの「K」を大切にしまちづくりを進めています。具体的には、環境ではゼロエミッション政策や里山づくり、雇用面では農産物のブランド化などを通じた新たな雇用機会の創出、健康面ではMRI（磁気共鳴画像装置）の無料診断化による市民の健康づくりです。

なかでも子どもたちの明るい未来のために、教育に力を入れると同時に、誇りの持てる郷土をつくっていくことが重要なテーマです。2009年4月に全国で2校目となるJFAアカデミーが開校することも決定しました。サッカーの巻誠一郎選手のフットサル教室も宇城バリューに開設されます。「熊本



に宇城あり」と、全国に知らしめることができ、子どもたちの教育にも大きな力となるでしょう。

イオンモール宇城バリューには、雇用の創出から教育まで、未来の宇城市のために力を貸していただきたいと思います。



フットサル教室を開校

■フットアス 巻 昇治

(サッカー日本代表候補
J1千葉 巻誠一郎選手の父)

息子の巻誠一郎は、「大好きなサッカーで地域に恩返しをしたい」と、出身地の宇城市でフットサル教室を開くことになりました。宇城バリュー内にフットサルコートを開けることができ、いよいよ2008年夏にスタートします。地元からサッカーの日本代表になるような選手が育つよう、子どもたちの夢を後押ししていきたいですね。



モール内の「宇城市行政サービスセンター サテライトプラザ」。住民票や納税証明等が土日でも受け取れるほか、市の広報ツールが揃っている。

「JA熊本うき」とタイアップした「農業体験福袋」では、親子揃っての田植えを体験。子どもたちの泥まみれの笑顔が印象的でした。(写真下)



■イオンモール宇城バリュー
ゼネラルマネージャー
山 義信



UCHIHARA
イオンモール
水戸内原
2007
5.3

**あたたかい拍手がうれしかった
満員のお客さまの前での新緑コンサート**

2007年5月3日 ■イオンモール水戸内原



楽しく元気な中学生による吹奏楽の演奏に、買い物にいらしたお客さまに爽やかな心地よい安らぎの時間を提供できました。用意した80席のイスは満席となり、レベルの高い演奏に盛大な拍手が送られました。演奏した中学生たちの照れながらも誇らしげな笑顔が印象的でした。

NATORI
イオンモール
名取エアリ
2008
3.20

**ぼくの描いた絵で
ラッピングされた電車が走ったよ
きょうは一日駅長なんだ**

2008年3月20日
■イオンモール名取エアリ



仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス鉄道の1周年を記念した「ト레인お絵かきコンクール」に協賛しました。3月20日には、「仙台空港鉄道賞」を受賞した2人の子どもが一日駅長となり、自分の作品がラッピングされたお絵かきト레인号の出発の合図をしたり、列車到着時にお客さまをお出迎え。イオンモールエアリ賞を受賞した50組150名の親子も専用列車に乗車し、楽しい時間を過ごしました。ラッピング電車は、約1か月半運行されました。

NIJUHAMA
イオンモール
新居浜
2007
5.3

**大人にも負けないぞ！
子ども太鼓台で「かきくらべ」**

2007年5月3日 ■イオンモール新居浜



秋の太鼓台まつりの子ども版。市内13台の子ども太鼓台がイオンモール新居浜に集合し、太鼓台を下から持ち上げて勇壮さ・美しさを競う、かきくらべが行われました。入場時に各太鼓台代表の子どもが、御花に対する御礼口上を大人に負けず堂々と述べ、大いに盛り上がりました。

**お祭りや工作、スポーツ、職業体験…
交流と出会いの場となるモールで、**

KYOTO
イオンモール
京都ハナ
2007
12.1-2

**サンタクロースになりきって
モールをパレード！
楽しいクリスマスだったよ**

2007年12月1日～2日 ■イオンモール京都ハナ



クリスマスを前に、サンタクロースになりきった子どもたちが1階フロアをパレードし、クリスマスの雰囲気を演出しました。テナントにプレゼントを用意いただき、通過点でプレゼント。パレード終了後は吹抜けモールに展示していた大型ツリーの前で、大きなサンタさんと一緒に撮影会を実施。合計400人以上の親子が参加し、館内はクリスマスの楽しい雰囲気でいっぱいになりました。普段は買い物のためにやって来るショッピングモール内をサンタの格好で練り歩くことで、子どもたちにとってよい思い出となりました。

KAWAGUCHI
イオンモール
川口グリーンシティ
毎月実施

**おじいちゃんに教えてもらった
ベーゴマで勝負だ！**

毎月実施 ■川口グリーンシティ



鑄物の街として栄えた川口では、機械部品などの生産の合間に鑄物工場でベーゴマが生産されていました。こんなベーゴマ文化を子どもたちにも伝えたいと、ボランティア団体「川口ベーゴマクラブ」主催で、毎月ベーゴマ大会が開かれ、小学生からお年寄りまで真剣勝負が繰り広げられます。

KOCHI
イオンモール
高知
2007
8.22

「キッズワーカーズスクール」で ショッピングモールの 仕事に挑戦!

2007年8月22日 ■イオンモール高知



子どもたちが楽しみながら、仕事や社会の仕組みを働くことを通して学ぶ、小学生対象の体験型イベントを開催。入社式や社員研修を経て、総合サービスカウンター、警備、トイザらスの仕事など、修了式までの半日を本物の会社のよなスケジュールで体験しました。館内放送や巡回、無線での連絡、商品の陳列など、緊張しながらも積極的に取り組んでいました。今回は小学校4～6年生の14人が参加。「仕事は楽しいけど大変なこともあるとわかった」などの感想が寄せられました。

イオンモールは全国のモールを舞台に、
地域の人たちとともに次代を担う子どもたちの心を育む
豊かな体験の場をつくりだしています。

いろいろな経験を紡いでいます。

KUIMAMOTO
イオンモール
熊本クレア
2007
9.23

きれいな川で大きく育て!

うなぎの稚魚の放流

2007年9月23日 ■イオンモール熊本クレア



嘉島町の矢形川河川敷で、子どもたちとうなぎの稚魚を放流しました。自然と触れ合い、命と心を育む環境づくりへの社会貢献として行っているもので、今回は地元嘉島町の嘉島保育園の園児15人が参加。父母と一緒に、うなぎの稚魚60kg(およそ1,000匹)を放流しました。

FUKUOKA
イオンモール
福岡ルクル
2008
1.19

気づかなかったことがいっぱい

アイマスクや車いす体験

2008年1月19日 ■イオンモール福岡ルクル



地元粕屋町の社会福祉協議会主催の障害体験教室を開催。地元の小中学生40人が、県立福岡魁誠高校のボランティアの高校生たちの協力を得て、館内で実際に車いすに乗ってみたい、アイマスクをつけて視覚障害を疑似体験したり、多種多様な“気づき”を習得しました。

郷土の特産物を

買い物客に一生懸命PRしたよ

2007年6月21日 ■イオンモール盛岡



岩手県山田町大浦小学校の6年生12人が、修学旅行の一環としてイオンモール盛岡を訪問。総合学習で学んだことを通して、郷土のPRをしました。小学生たちは、山田町大浦の特産物である塩蔵若布、干しいたけや、使用済み食用油で作った石鯨を買い物客に紹介し、伝統芸能「大浦さんさ」を披露。また、イオンモール盛岡近隣の土淵小学校と踊りを通じた交流も行われ、大盛況でした。

開催後も反響は大きく、参加した小学生から喜びの手紙も届きました。

FUTSU
イオンモール
富津
2007
7.16・21

「イオンモール富津杯」をめざして

思い切りシュート!

2007年7月16日・21日 ■イオンモール富津



13回目を数えるイオンモール富津杯・ジュニアサッカー選手権大会。富津市臨海陸上競技場を会場に、君津地区4市をはじめ南房総市など県南4市の合計8市から、小学5年生以下の24チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。表彰式はイオンモール富津のセントラルコートで開催され、多数のお客さまからの拍手を受けました。

一人ひとりが社会に目を向けています。

お客さまとのコミュニケーションを深めながら

イオンの理念の徹底をめざして

イオンでは、「すべてはお客さまのために」を基本に、お客さまの生活文化の向上を目指し、現状に満足することなく、常に一步先んじていくことが私たちの存在価値であり、イオンの「信頼のブランド」を築くことにつながると、2001年に「イオン宣言」を制定しました。そして、2003年4月に「イオン行動規範」を制定し、私たちのとるべき行動の指針としました。

毎年1回「イオン行動規範セミナー」を実施し、サービスカウンターや、警備や清掃を担当するパートナー企業、ならびに、ご出店いただいているイオン各社の従業員が参加し、イオンの理念の徹底を図っています。2007年度は1,516名が参加しました。

イオンモールSR賞で、社会貢献に取り組む姿勢を後押し

2005年度から「イオンモールSR賞」を設け、環境保全や社会貢献活動に積極的に取り組んだモール・部署を表彰しています。従業員の自主的な参加や工夫が生きる風土を醸成したいと考えています。

2007年度SR賞受賞一覧

SR賞	受賞モール/部署	実績	全社
行動規範推進賞	イオンモール盛岡	194名	1,516名
	イオンモール成田	243万7,173円	
募金活動賞	イオンモール高知	188万1,711円	4,328万7,803円
	イオンモール鶴見リーファ	124万9,657円	
献血活動推進賞	イオンモール倉敷	5,026名	3万8,868名
クリーン&グリーン賞	イオンモール成田	4,288名	4万7,030名
黄色いレシートキャンペーン賞 (投函されたレシート総額)	イオンモール太田	4,898万9,154円	2億3,366万8,605円
	イオンモール京都ハナ	2,173万4,449円	
	イオンモール新居浜	527万9,366円	
ハートフルマーケット賞	イオンモール大和	148万9,000円	536万638円
環境家計簿団体賞	イオンモールつがる柏	77名	407名
SR会議特別賞	保険部会(環境家計簿)	67名	407名



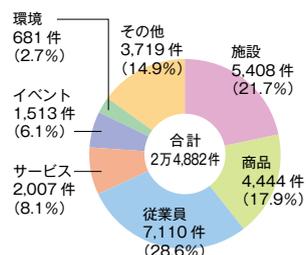
イオン行動規範 宣言

- 一、イオンピープルは、常に多くの人々から支えられていることに感謝し、ひとときも謙虚な気持ちを忘れません。
- 一、イオンピープルは、人々との信頼をなによりも重んじ、いかなる時も正直で誠実な行動を貫きます。
- 一、イオンピープルは、お客さまの期待を感動に高めるため、常に自らを磨きます。
- 一、イオンピープルは、イオンの理想を実現するため、ためらうことなく変革への挑戦を続けます。
- 一、イオンピープルは、地域の発展を願い、よき企業市民として社会への奉仕につとめます。

つねにお客さまの声を指針に

お客さまの視点を徹底するために、イオンモールでは全モールに「お客さまの声ボックス」を設置しています。ゼネラルマネージャーはもちろんのこと、社長をはじめ担当役員自らがすべてに目を通し、お客さまの声の背後にあるニーズを受け止め、お客さまの声はモールを革新していく原動力と認識しています。

回答はモール内に掲示しており、お客さまの声を受けて改善した事例は、写真とともにわかりやすく紹介しています。





■(財)イオン環境財団
イオン1%クラブ事務局長
神尾 由恵 (かんお よしえ)

**お客さまの支援を得ながら、
社会の一員としての活動を深化させてきました**

■ 19年間の広がり

イオン1%クラブが設立されてから、今年で19年になります。当初は約1億円だった活動資金も、昨年は約17億円と年々増え、それとともに活動内容も広がってきました。グループ企業各社が税引前利益の1%を拠出していますが、昨年度のイオンモールの拠出額はグループ2位とたいへん貢献してもらっています。

また、お客さまにお願いする募金活動も広がり、国内外の自然災害などへの支援募金の参加人数もその額も大きくなってきています。

私たちの募金活動の最大の特長は、すべての募金活動において、お客さまからの募金額に、イオン1%クラブから同額をプラスして届けることです。学校建設の場合には、さらに日本ユニセフ協会からも同額がプラスされ、お客さまの善意が何倍にもなって、大きな支援の力になります。

■ イオン1%クラブの活動の3つの柱

イオン1%クラブの活動は、3つの柱があります。「環境保全」「国際的な文化・人材交流・

人材育成」「地域の文化・社会の復興」です。

具体的には、子どもたちに環境について興味を持ってもらうための「イオン チアーズクラブ」や「ドイツに学ぶエコライフ」ツアーをはじめ、カンボジアやネパール、ラオスなどでの学校建設にも取り組んできました。2007年はカンボジアに「シアヌーク イオン博物館」をオープンしました。日本の調査団によって発掘された石仏約274体を、現地で保護研究し、多くの人に見てもらうための施設です。2008年度は、10年前から続けてきた地雷撤去活動に力を入れます。募金活動のほかにも、「子ども地雷サミット」などを行う準備も進めています。

■ 800万本の植樹実績

一方、イオン環境財団の大きな活動のひとつが自然保護活動を行っているNPOの支援と、知床やマレーシア、中国の万里の長城など国内外の植樹活動です。お客さまや社員、地元の方たちみんなが一緒になって、1本1本植えてきました。その総計は、2008年2月でグループ全体で約800万本になりました。

イオン1%クラブもイオン環境財団も、20年近く活動を続けてきた今、こうした私たちの活動が、お客さまにずいぶん認知されてきたと感じます。募金のお願いや、その後の報告、植樹や学校建設ツアーへの参加の呼びかけなど、小売業であるイオンやディベロッパーであるイオンモールだからこそできる、情報発信の力も大きいと感じます。

社会貢献活動は、イオンがまだ岡田屋だった昭和30年代に、すでに奨学金制度などの活動としてスタートしたものが、地道ながら今日まで活動を続けてきたことが、グループの成長につながり、お客さまに支えられ、従業員の活動の源になっているのです。



2006年から3カ年計画で、ラオスに100校の建設をめざし「ラオス学校建設支援募金」を実施。2007年までに1億32万3,147円の善意が寄せられ、イオン1%クラブからの拠出金を合わせた2億632万3,147円で62校の建設を支援。



イオン環境財団では、2008年11月11日、「全国都市緑化ぐんまフェア」の一環として、太田市北部運動公園のピクニックの丘約0.5haに700本の苗木を植樹。雨にもかかわらず157名の参加がありました。



毎月11日のイオンデーには、モールの周辺を専門店の従業員とともに清掃します。写真はイオンモール浜松志都呂。拡大クリーンデーとして、浜名湖クリーン作戦に参加しました。

**幸せの黄色いレシート
キャンペーン**

毎月11日のイオンデーに、地域NPOなど応援したい団体のボックスにお客さまに黄色いレシートを入れていただき、集計額の1%相当の物品を団体に贈呈。

2007年度の主な募金活動結果

単位:円

	4月度	6月度	7月度	8月度	12月度	12月度
	北陸能登半島沖地震	ラオス学校建設支援募金	新潟県中越沖地震	24時間テレビ「愛は地球を救う」	だっこサンタクリスマスチャリティ(日本ユニセフ協会)	ラッピング募金「バンダ絶滅を阻止しよう!」
イオン・イオン各社	9,010,667	55,265,889	39,812,440	276,960,401		11,590,582
うちイオンモール	979,840	3,834,840	2,634,075	16,753,456	18,879,692	204,898
イオン1%クラブ、イオン環境財団	11,000,000	56,000,000	40,187,560			13,409,418
総合計	20,010,667	111,265,889	80,000,000	276,960,401	18,879,692	25,000,000